

■e-黒板ニュース（第23号）：天使の歌声とIT活用

今日は、千葉県市原市立清水谷小学校に行きました。光村図書の国語、教育出版の社会科に続いて、e-教科書活用の第三弾です。東京書籍の社会科のデジタル掛図を活用した授業です。e-黒板は、一体型タイプです。

機器を貸し出してわずか10日。担当の先生は、パソコンは「お便り」と「電子プリント」を作る程度。それまでは、パソコンを使った授業はしたことがなかったそうです。さて、どんな授業になったのでしょうか？

今号の目次：

=====

1. 報告：千葉県市原市立清水谷小学校の社会科の授業

=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：千葉県市原市立清水谷小学校の社会科の授業

東京駅からJR快速で約40分。千葉駅から京葉千葉線で15分。終着駅の、ちはら駅から車で5分のところに清水谷小学校がありました。谷間ではなくて、丘の上の閑静な住宅地の中の新しい、綺麗な校舎でした。

廊下ですれちがう子どもたちの「こんにちは」「こんにちは」という元気な声と、素敵な笑顔が何よりもうれしいものです。

校長先生に案内されて、3階の五年組の教室に向かう。途中、高石哲巳校長は子どもたちに親しそうに話しかける。「こないだ、どうだった？」 その子どもは、ごく自然に答える。「ボク的には、うまくいった。」・・・

○天使の歌声

教室に着くと、13:50からというのに、10分前には子どもたちは勢ぞろいしてしていた。そして、一斉に歌いだした。それは、それは、なんとも美しい歌声だった。「天使たちの声」かと思った。いっしょに見学した人は、「CDかと思った」と表現した。

いつもは、その日の最後に行く「おわりの会」を先にやったのだそう。だ。（授業が終了したら、すぐに先生と私たちの話し合いができるようにとの配慮からだった。）

毎月違う歌を、みんなで毎日歌うのだそう。その「今月の歌」は、こんな歌詞だった。

・・・
 きぼうを見つけて 生きていけば
 えがおはきっと もどってくる
 ・・・
 そしてまた ひとつ おとなになり
 やさしい 心に とびこもう
 まどの そとには ゆめがある」
 私には、天使たちの歌声に聞こえた。

○映像と子どもたち

そして、いよいよ山口陽子先生の授業がはじまった。（深緑ではなく）黒い黒板の先生の白いチョークの達筆が映える。

「日本が輸入しているものにはどんなものがあるだろうか」と書かれていた。今日の単元は、東京書籍の教科書「新しい社会5上」の「工業生産をささえる貿易と運輸輸入の主役」だ。

先生は黒板にどんな字を書いていくけれど、黒板の向かって右横におかれた電子情報ボードは、まったく使われる気配がない。最後まで使われないまま終わってしまうのではないかという不安が、一瞬頭をよぎった。

その時、やっと電子情報ボードの出番が来た。写されていた教材は、東京書籍のデジタル掛図。子どもたちの手元にある教科書の図やグラフなどの資料が収録されている。そして、先生が提示しやすいように、順々に表示していく機能や画面の一部を拡大する機能などがある。

電子情報ボードに写された帯グラフを示しながら、先生が「この前の学習は輸出がテーマだったよね。何が第一位だったかな？第二位は、第三位は・・・」と質問すると、子どもたちは、「第一位は機械類。第二位は・・・」と、すらすらと暗記していたかのように答えた。これには、先生も驚いた！なぜ、すらすらと答えられるの？

あとで先生が言うには、前の時間に使った教材で、第一位から順々に表示していたのを、子どもたちは体で覚えていて、すらすらと言えたのだと思うとのこと。電子情報ボードは、子どもたちの「興味・関心」をひくことはもちろん、「理解」にも役立つ

っている。「だって、子どもたちは映像にとっても敏感だから」と。

○調べ学習と教材提示

先生は子どもたちに宿題を出していた。きょうのテーマは「日本が輸入しているものは何？そして、なぜ？」ということで、それぞれの家庭で、「家にあるもので、外国から輸入をしているものを調べて、なぜそれを買ったのか」を調べておくことだった。

食料品や洋服、車や家具……。昔習ったのは、「日本の特徴は加工貿易。原料を輸入し、加工して、製品を輸出」ということだったが、今では、原料だけではなく、機械類などの製品の輸入量も増えている。先生は、一人の児童を指名し、電子情報ボードに機械の輸入量の年代ごとの変化を折れ線グラフで書かせた。教科書のグラフを書き写すだけだが、子どもたちはみんな自分で電子情報ボードを使いたそうであった。氏名された子は、最初、グラフの横軸を無視して失敗したが、それを「消しゴム」機能で立派に消して、二回目にはちゃんとグラフを書いた。

子どもたちは、45分の授業の中で全員が最後まで集中し、課題に取り組んでいた。これは、I T (e-黒板とe-教科書)のお陰ではなく、明らかに先生の力量(授業力)であり、今まで学校が築き上げてきた風土によるものであると思う。

◎まとめ

校長先生は山口先生を「うちのエースです。」と紹介されました。I Tに特別強いわけではないけれど、授業をやらせると上手い。そんな山口先生の授業で、「なるほど」と思ったことがいくつかあります。

- ・I Tは、さりげなく使う。必要な場面だけ使う
- ・電子情報ボードは、子どもたちにも使わせる
- ・子どもたちが調べたこと、経験したことから、授業を組み立てる
- ・あらかじめ授業のシナリオを作っておくが、子どもたちの反応や展開に応じて、柔軟に変化させる

ハード(e-黒板)やソフト(e-教科書)の課題についても、それとなく、指摘してくれました。

- ・画面がもう少し大きい方がよい
- ・天気がよくて明るい日は、窓と反対の席からは、反射光で画面が見にくいことがある
- ・グラフを順々に表示する場面では、もう少しゆっくり表示できたり、停止できたらよい
- ・資料の写真を部分的に拡大したとき、画像が荒くなってしまう資料がある等です。

こどもたちが歌った「今月の歌」は、いじめで自殺した子どもが作詞した歌だと、あとで校長先生が教えてくれました。別の学校のこどもだけれど、と。

ミレニアムプロジェクトの標語は「子どもたちが変わる 授業が変わる 学校が変わる」ですが、「素晴らしい子どもたちがいる 素晴らしい授業をしている 素晴らしい学校がある」

「ひょっとしたら、毎日、全員で歌うことでみんなの心を一つにすることができるのではないだろうか。I Tなどいらないのかもしれない。」と考えたりしました。でも、その素晴らしい学校の陰には、若い先生方にいろいろとチャレンジをさせて、「子どもたちを変えていこう！ 授業を変えていこう！ 学校を変えていこう！」と、I Tも積極的に活用していこうとしている校長先生がいることに気がつきました。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====